



指定準文化財

化財 嘉永の津波供養塔 光明寺
あり。九十一・五センチの内柱形で

亥十月四日(七〇七)大地震津

五十年 嘉永七(寛政十月四日(六五

五)上り、氏神社初、人家四十五

人有。此後大地震之時は津良

は平地に出、巾

申事。わし

明治十三年二

和五十四年

熊野市

熊野市遊木町の光明寺境内にある「嘉永の津波供養塔」の拡大写真。1707年宝永地震の際に、大地震と津波があったこと、1854年安政東海地震の際に、この地を襲った津波や被害の様相、後世に遺そうとした津波教訓が記されている。



熊野市指定準文化財
有縁塔 嘉永津波供養塔 光明寺
主塔は、高き九十二センチの円柱形で
左の切付がある。
「昔、宝永四年四月七日、七ヶ大地震津
浪有、以苦五年、嘉永五年十月日、公
大地震津波又起、兵糧切、人家半、
軒流出、流死、文、此後、地震、時、津波
あり、得、初、平地、出、ゆ、終、り、災、難、だ
か、所、之、可、申、事、く、し、は、過、哀、情、有、し、
但、是、過、後、明、治、十、年、公、大、火、災、地、災、未、
指、止、昭和五十四年四月一日
熊野市教育委員会

熊野市指定準文化財
民俗資料館
共蔵

熊野市遊木町の光明寺境内にある「嘉永の津波供養塔」の全景。後方にあるのは、「嘉永の津波供養塔」について説明する熊野市指定文化財の看板。